

平成28年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成		
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成		
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成		
2 今年度の重点目標	1 学力向上とキャリア教育の充実	4 特別支援教育の推進	7 生涯学習講座の充実
	2 生徒指導の充実	5 保健衛生・安全管理指導の充実	
	1	6 危機管理体制の整備	
3 昨年度の成果と課題	1 進路決定率は定通とも目標を達成したが、今年度も継続してキャリア教育の充実を図り、質的な向上も含めて目標の達成を図る。		
	2 出席率や読書活動を除くとほぼ目標は達成されているが、目標を達成するために必要な取組み、組織的な対応などに注目した評価を行う。		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	・開かれた学校づくりの推進 ・信頼される学校づくりの推進	・学校評価の実施と活用 ・学校関係者評価の活用 ・教育公務員としての倫理観の涵養	B	リニューアルしたHPやボランティア活動、新たな3Dプリンターを含む生涯学習講座等を通して学校の情報や資源を地域に発信した。また、倫理委員会等あらゆる機会を通して信頼される学校づくりに努めた。	学校評価による有益な意見が反映されるよう十分検討し、できるところから学校改善に向けて取り組んでいく。 学校・家庭・地域の共通理解のためにHPや文書通信等を一層充実させ、学校の情報発信に努める。	B	学校関係者評価について多面的な評価を求めている姿勢は良い。 リニューアルしたHPは見やすくなり、学校の情報発信を積極的に行っている。さらに、定時制・通信制のシステムなど、まだ十分認知されていない点を周知するための情報発信を期待する。
学習指導	・確かな学力の育成 ・確かな学修の保障	・授業評価の実施と活用 ・シラバスの作成と活用 ・面談・添削を通した学習意欲の喚起	B	探究型学習の活用をテーマとした研究授業や質問項目を見直した授業評価を2回実施し、授業改善に努めた。シラバスを分かりやすい構成に改訂した。面談等を通じて、生徒一人ひとりの学習意欲喚起に努めた。	授業評価の結果や職員研修会で学んだ事を生かして、更なる授業改善を進める。生徒の単位修得率向上に向けて、生徒個々の目標に応じた履修登録を進め、生徒の学習意欲の高揚に取り組む。	B	生徒一人ひとりの目標に沿った学習へのアドバイスや分かりやすい授業等により、生徒の学習意欲を一層引き出してもらいたい。 生徒のアンケートでは「授業で不明な箇所を質問できない」と回答した生徒もいるため、より丁寧に配慮ある指導を願う。
生徒指導	・人間の在り方生き方を考える生徒指導の充実 ・いじめ防止の取組の充実	・HR活動や行事を通した自己有用感と他人を思いやる心の育成 ・本校らしい、いじめ防止の取組の実行	B	学校祭等への積極的な取り組みにより自己有用感の醸成を図った。また、18歳選挙権に向けた主権者教育を実施し、社会性の育成に取り組んだ。2度のアンケート調査により、いじめの把握と防止に努めた。	新入生の高校生活初期の生活指導を、これまでと同様に丁寧に行う。日頃より、HR活動や生徒会活動等を通して、在り方生き方を考えさせる指導・活動を続けていく。	B	学校行事やボランティア活動等の充実を図り、生徒の主体性や自己肯定感・自己有用感を育てる活躍の場を数多く作ってもらいたい。 いじめがあっては元も子もない。早期発見・早期対応のため、従来のアンケートのほか、ヘルプラインを設けるなどの対策の検討も必要である。
進路指導	・キャリア教育の充実	・進路情報提供と進路ガイダンスの実施 ・CSプロジェクトの推進による社会力の向上と健全な職業観・勤労観の育成 ・卒業予定者の進路決定率の引き上げ	B	ソーシャルスキルトレーニングや相談活動が奏功し、進路決定率は77.8%と好調であった。また、基礎学力の向上をCSプロジェクトの新たな柱に据え、探究型学習の授業研究に取り組んだ。	今年度新たに作成した進路ハンドブックの有効な活用と組織的な指導体制の確立を図り、CSプロジェクトをさらに推進し、継続性のあるものにしていく。	B	進路決定に向けたキャリアサポート体制や進路相談の機会は従来に比べてかなり充実している。 職業観・勤労観の育成を一層推進するとともに、進路については家庭の考え方や意向もあるので、保護者に対する早めの情報提供を望む。
健康安全指導	・保健衛生安全管理指導の充実 ・危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの点検 ・防災・不審者対策の訓練・研修の実施 ・医療相談機関との連携の強化	B	複数回の研修会を行い、防災体制と不審者侵入時の具体的対応を確認した。メンタルヘルス会を3回開催し、問題の報告と個別相談を行い校医より貴重な助言をいただいた。	特別支援巡回相談を実施し、的確な指導を数多く受けた。今後も相談を継続し、連携を強化していく。	B	入校証着用の徹底など、日常的な学校の管理はできている。危機に直面した時、適切かつ迅速に対応できるよう具体的な防災の研修会や訓練を継続して行うことが大事である。 精神的に不安定な生徒に対しての個別相談等については、今後も継続して行うことが必要である。
家庭・地域との連携	・保護者や地域への情報発信 ・生涯学習講座の充実	・「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 ・HPを利用した情報発信 ・魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	各種「通信」に加え、HPも活用しながら、生徒たちの活躍や学校の現況をある程度タイムリーに発信できた。また、生涯学習講座のメニューを一部見直した。一部講座では受講生の増加も見られた。	HPの内容充実を図っていくとともに、今後もタイムリーな情報発信に努める。また、生涯学習講座については生徒の参加に課題を残しており、引き続き内容等の見直しを行っていく。	B	学校の情報発信を増加させたことは良い。それをいかに閲覧してもらうか、また、HPの新たな活用も含め工夫が必要である。 生涯学習講座が市民にも開放されていることは大変意義深いことである。外部へのPRを強化し参加者の拡大を図ることが必要である。
特別支援教育	・保健衛生安全管理指導の充実 ・特別支援教育の推進	・支援を必要とする生徒への指導体制確立 ・個別の支援計画や支援プログラムの作成 ・授業のユニバーサルデザイン化	B	配慮が必要な生徒に対しては、個別の支援チームを組み、情報を共有しながら、組織的に対応することができた。ライフスキル講座を引き続き実施した。	職員研修会の実施等を通じ、個々の生徒のニーズに対応するためのさまざまな知識の習得・スキルの更なる向上を図る。	B	特別に配慮が必要な生徒への指導は、個々により指導内容が違うが、学校の指導体制は充実しており、個別の指導が熱心に行われている。他の生徒との人間関係をいかに構築させていくかが課題で検討してほしい。